

公開シンポジウム「食料は足りるのか」のお知らせ

日時 平成 28 年 3 月 12 日（土）13 時～17 時 30 分

場所 東京大学農学部弥生講堂

後援：東京大学大学院農学生命科学研究科、毎日新聞社、ワールドウォッチジャパン

趣旨：人新世（Anthropocene）は、とくに 1950 年代から始まった人間活動の一大加速とも呼ぶべき状況の表れである。人口が 1800 年代初めに 10 億人に達するのに、およそ 20 万年を要したが、現在では 70 億人を超えている。国連・社会経済局の最近の発表によれば、さらに「世界人口は今後 15 年で約 10 億人増え、2030 年までに約 85 億人に達する。50 年までには約 97 億人、2100 年ごろには約 112 億人に膨張する」と予測されている。この数字の当否は別にしても、世界の人口扶養力を分析して示すことは、日本の食料地政学的位置づけ、さらには日本の農政の一指針ともなりえよう。

本シンポジウムでは「世界の食料需給」を概括的に展望し、引き続き農業における主要な生産要因である「気候変動による水文学的影響」「土壌資源」「諸生産要因の動向と食料生産力」などをめぐって現状を分析し、科学・技術的展望を示す。また、動物性タンパクの重要な供給源である「漁業資源」をめぐって、その資源量の現状を分析し、国際的資源管理の展望を示す。

■プログラム

総合司会		(公財) 農学会 常務理事	丹下 健
13:00～13:05	開会挨拶	(公財) 農学会 会長	長澤 寛道
13:05～13:40	「世界の食料問題と日本のポジション」	名古屋大学大学院生命農学研究科・教授	生源寺 眞一
13:40～14:15	「水と気候変動と食料生産」	東京大学生産技術研究所・教授	沖 大幹
14:15～14:50	「人間と土壌」	東京大学名誉教授	宮崎 毅
14:50～15:05	・・・休憩（15分）・・・		
15:05～15:40	「魚が獲れなくなることは、『大問題』か？」	東京大学大学院農学生命科学研究科・教授	黒倉 壽
15:40～16:15	「100 億人を扶養するための食料生産： 挑戦と課題」	国際農林水産業研究センター 理事長	岩永 勝
16:15～16:25	・・・休憩（10分）・・・		
16:25～17:25	パネルディスカッション		
		司会：東京大学大学院農学生命科学研究科・教授	中嶋 康博
		パネリスト：上記講演者 5 名	
17:25～17:30	閉会挨拶	日本農学アカデミー 会長	古在 豊樹

事前申込先：ワールドウォッチジャパン E-Mail : wwj@boreas.dti.ne.jp